

標高が高くなると気温は低くなる

標高が高くなると気温が低下します。一般的には100mにつき0.6℃下がります(気温減率)。

図1-2のグラフは、富山市(富山地方気象台)、美女平(標高970m)、弘法平(標高1630m)、追分(標高1800m)、浄土山山頂(標高2839m)の2008年8月3日~9日までの気温を比較したものです。全般的には、標高が高くなるにつれて気温が低下していますが、細かく見ると、弘法平と追分の気温が美女平と同程度だったり(8月5日)、追分と弥陀ヶ原の気温が浄土山山頂と同程度に下がったり(8月8日、9日)、気象状況によって変化するようです。

図1-3は2008年の観測データから1週間毎の平均気温を求め、これから気温減率を計算したものです。弘法平と追分との間では乾燥した大気の気温減率(1℃/100m)に近い大きな値で、室堂平と浄土山との間でもそれに近く、弥陀ヶ原と室堂平の間ではやや小さな値となっていました。

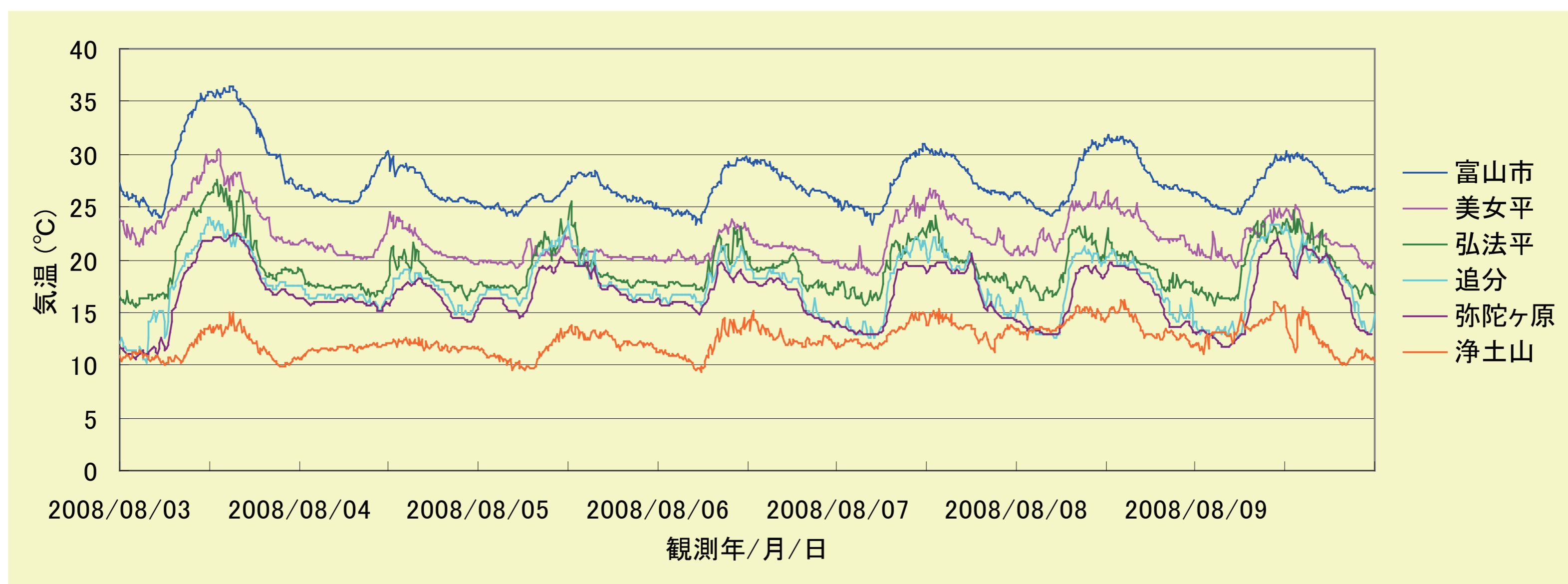


図1-2 富山市、美女平、弘法平、追分、浄土山山頂の気温の比較(富山市データは気象庁ホームページから引用)

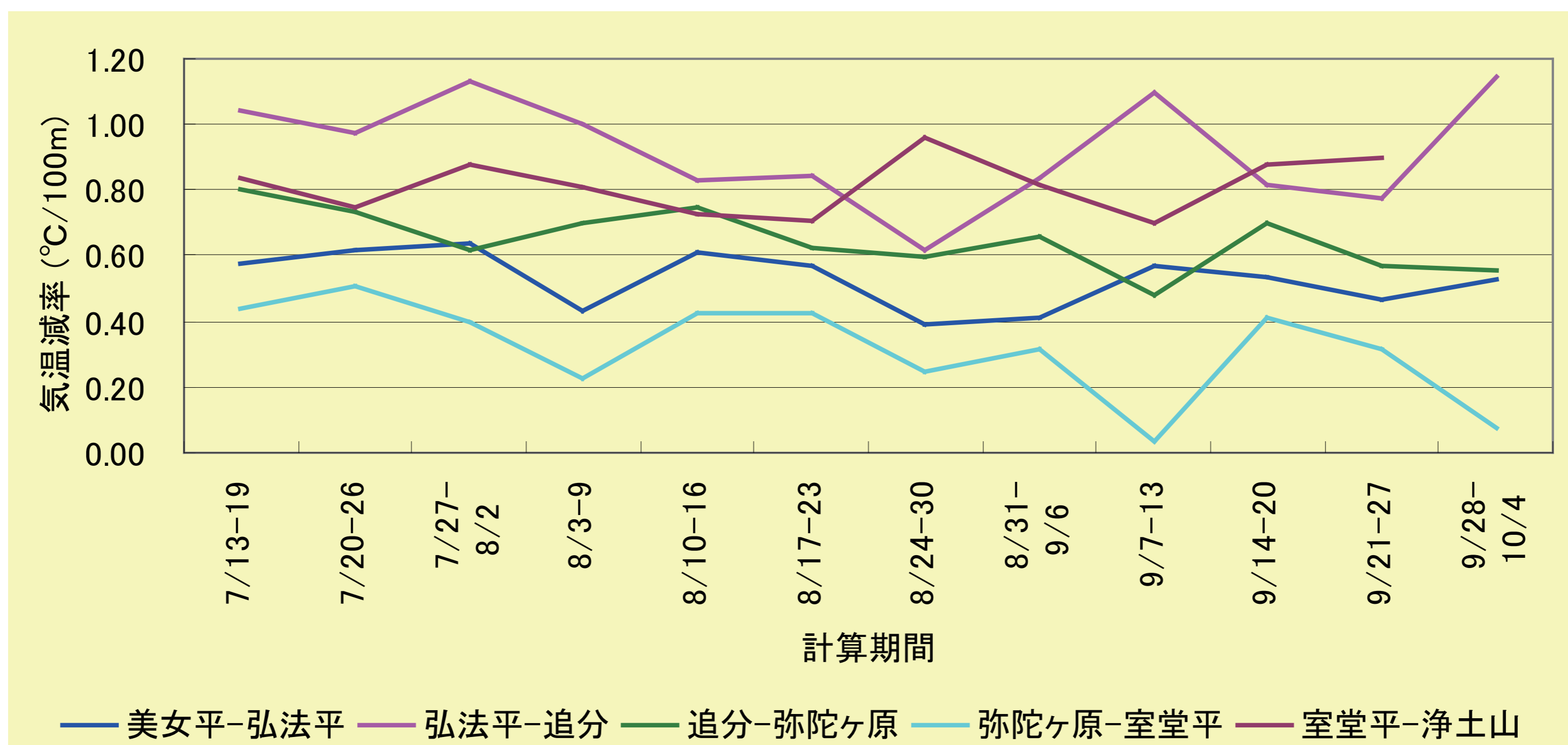


図1-3 各観測点間で計算した気温低減率

参考文献

気象庁ホームページ、九州大学調査資料、立山カルデラ砂防博物館資料、共同管理気象資料